



鈴木 乃々香 (すずき ののか) みなみ野君田小 5年

作品名：久子さんが考えたこと

図 書：こころの手足

わたしは、「こころの手足」という本を選びました。なぜなら、切断手術をして手と足がなくなってしまうたらどうなるのかが気になったからです。

この本を読んで、中村久子さんが切断した手のかわりに口を使って字を書いていたのがとてもすごいと思いました。そして、ある日とつ然目も見えなくなってしまうけれど一年がたった日の朝目が見えるようになって本当によかったと思いました。

もしもわたしが久子さんのようになってしまっていたら、何もできずにあきらめてしまったと思います。久子さんはわたしとはちがって、前向に考えているんだと思います。

本の作者の久子さんは、毎日毎日大変だけどがんばっている人がたくさんいるんだということを読む人に伝えたかったと思います。その考えについてわたしは、たくさん勇気をもたらえる本だということに気づきました。

久子さんは、二歳という小さいころからあきらめずにがんばっているのと同じ人間として何でもあきらめずにちょうせんしていきたいと思います。それから、もしも久子さんのように大変そうな人達を見かけた時はできることがあったら手伝わせてもらいたいと思います。何があってもどんなときでも自分ならできるんだということを考えて、これからはがんばっていきたいと思います。自信を持つということの大切さを知りました。

私は、こっ折をしたことがあります。二年生のときだったので最初はどのようにいか分かりませんでした。いたくて泣いてばかりだったけれど、毎日家族や友達にたくさん助けてもらっていました。あのときは、もっと自分でがんばっていればよかったと思いました。これからはもしもたようなことがあったとしても、二年生の経験をふり返って久子さんのように前向きでいられるようにがんばっていきたいと思います。この本に出会えて本当にうれしいです。今まであきらめていたことがたくさんあったけれど、これからはできることをどんどんふやしていきたいです。あきらめずに自分を信じて常に前向きに行動できるように努力を続けていきたいです。何度も失敗して努力をつみ重ねていけば、いつか必ずゴールがあるとわたしは思います。久子さんは、あきらめなかったからこそ色々できるようになったんだということが分かりました。これからはとても楽しみです。